

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和2年7月28日(火) 午後7時00分～8時15分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	搦木道代議長、吉田廣子委員、荒川照子委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、堀川博基委員、米山隆二委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付式 3 報告及び連絡事項 4 第32期後期のテーマについて 5 閉会
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代議長

会議内容

1. 開会

2. 委嘱状交付式

- 委嘱状交付
- 教育長あいさつ

3. 報告及び連絡事項

- 議長あいさつ
- 委員紹介
- 関係委員等確認

4. 第32期後期のテーマについて

事務局より、第32期後期のテーマとなる地域子ども教室について説明を行った。

【議長】まず今年度については、新型コロナウイルスの影響もあるので、1回の会議にかける時間をなるべく短くし、その代わりに各自持ち帰って検討を進めるといった形をとりたいと考えるが、どうか。

→委員承認。

【委員】地域子ども教室に実際に携わったことがある方、事業を理解している方はいるか。実際に経験したことがある方から話を聞きたい。

【議長】子ども教室に携わっているスタッフの方を会議に呼ぶ、という事か。

【委員】社会教育委員の中で実態を理解している方はいるか、という事。立ち上げた経緯等を聞きたい。

【議長】私も関わったことがないので、ぜひ意見を聞きたい。

【事務局】子ども教室の概要については本日配布した事業報告書を確認していただき、その上で次回の会議で課題点等を担当職員から説明できればと考えている。議長より会議時間の短縮という話があったが、会議で紹介・説明をさせていただき、資料を持ち帰っていただき、郵便等で提出していただくという形で展開していければ。

【議長】確認であるが、委員の中で子ども教室について全く分からないという方はいるか。

→なし。

【議長】地域子ども教室を立ち上げた経緯が知りたいので、次回までに資料を用意してほしい。富士見市独自の取組なのか、全国的な取組なのか。その中で富士見市はどのような位置付けでもってやっているのか。今ある課題を理解するためにも確認したい。

【委員】国から予算がつき、富士見市では水谷地域で先進的にやってほしいという事で始まったと記憶している。私も子どもたちに囲碁を教えるボランティアとして参加したことがある。

【委員】地域子ども教室に関わっているサポーターの方たちと個人的に話したことがあり、ある程度は理解しているつもりだが、委員が実際に見学をしに行

くこともいいのでは。

【議長】各自近くの教室に足を運び、スタッフの方に話を聞ければと考える。各教室の課題や、また、やっつけてよかったことを聞ければ。問題なく開催できているところの情報を他の教室にも伝えていければよいと思う。委員が実際に目で見て、話を聞くのもひとつか。

【委員】今はコロナの影響で活動がほとんどないのではないか。

【委員】子ども教室だけでなく、子どもの集まりについては殆ど中止となっている。

【事務局】事務局で把握している分について、年内もしくは今学期はほとんど中止と聞いている。みずほ台地域の教室で7月22日に開催されたが、他の教室については実際に見学に行くのは難しいかと思う。また当日はスタッフの方は多忙なので、見学するのは可能だが、話を聞くのは教室によっては難しい。スタッフや立ち上げ当初を知っている方から話を聞いて、会議の場で情報提供というほうが現実的かと考える。

【議長】事務局で情報収集をしてもらって、それに基づいて検討していくという形が今年度は現実的かもしれない。

【委員】概要については事業報告書で把握できると思う。水谷東地域の子ども教室に携わっていたが、昨年度をもって休止とした。国や県では、放課後児童クラブとの一体化を推進しており、県開催のコーディネーター研修で新座市や志木市など、他自治体の事例を聞いた。志木市では児童クラブと一緒に民間委託されており、スタッフも有償で活動している。富士見市でも同じようにできれば人材不足の問題は解決できると思ったが、事務局に確認したところ、富士見市では現状そのような形を導入する予定はないという事だった。水谷東地域では後継者を探すのにかなり苦労しており、ボランティアはたくさんいるのだが、中心となる人物が見つけれずにいた。一緒に研修に参加したスタッフもこの一件で気持ちが切れてしまい、現状の子ども教室のやり方が、次の担い手である若いお母さんたちにとって難しいのであれば、若いお母さんができる方法、求める子ども教室のあり方を考えてもらおうということで、一回お休みということにした。他の地域の教室についても、スタッフの中には高齢の方もおり、いつまで続けられるかという不安が共通してある。新しいやり方を考える時期かと考える。

【議長】最初の教室を立ち上げて15年という話があったが、ここが転換期ということか。以上のことも踏まえて、社会教育委員会議としてなにをスタッフの方々に聞きたいかという事をまとめる必要がある。次回会議で話し合い、事務局を通して運営しているスタッフに投げかけ、より多くの方の意見が聞ければと思う。今後の展開として、8月に次回会議を開催し質問内容を決め、2カ月弱あけて3回目を開催し、そこで返ってきた答えを検討という形でよいか。

→委員承諾。

【事務局】事務局としても問題ない。ただスタッフの方の都合もあるので、回収できる範囲での提示となる。

【委員】質問を投げかける際に、コロナウイルスの影響で開催できないことへの課題を聞くのか、それとは関係なく子ども教室としての根本的な課題を聞くのか、しっかり区別して投げかける必要がある。回答の中に両者が混在し

ないよう注意が必要である。

【委員】 次回の会議で確認できればよいのだが、事業報告書を見ると連絡協議会という組織がある。地域子ども教室に大きな課題があるのであれば、本来そちらの場で話し合いがなされるべきなのではないか。なぜ、この社会教育委員会議でこのテーマを話し合わなければいけないのか。子ども教室に関わったことのない人間が勝手に意見してよいものなのかという不安もあるので、テーマとして取り上げる理由を確認しておきたい。

【委員】 7月22日にみずほ台地域で実施したとのことだが、どんな活動であったのか。

【事務局】 みずほ台地域の教室は通常時から低学年保護者会時の見守りとして開催している。今回は体育館に距離を保ってイスを配置し、映画鑑賞会を開催した。会場の扉や窓も開放し、三密を回避しながら開催した。

【議長】 子ども教室をテーマとしたいというのは前担当者より聞いていたが、連絡協議会という組織があることは今日知った。確かに、連絡協議会がどういう場なのか次回確認させてもらいたい。ただ、教育長の話に「永遠の課題である後継者問題」、また「地域の関わり」という言葉があった。連絡協議会は子ども教室の「内側の人間」という捉え方なのかと思う。外から「こういうことができるのでは？」と意見を出していればよいのではないか。

【委員】 連絡協議会は年に2回開催しているようだが会議録はあるか。そこで問題点が話題に出ているのであれば、参考になると思う。

【議長】 会議録については次回の案内通知と一緒に郵送してもらえるとよい。事前に目を通しておくことで、会議の場でより踏み込んだ話ができる。

【事務局】 この会議で、子ども教室立ち上げの経緯、連絡協議会という組織について、またその会議録、社会教育委員会議でテーマとする理由、以上の4点について確認が必要とご指摘をいただいた。これらについて、準備が間に合うかぎり事前に郵送で配布させていただく。

【議長】 委員各自、時間の許す限り事前に目を通し、次の会議に臨めれば。

次回は事前に資料を送付したうえで、子ども教室スタッフにどのような質問を投げかけるか、課題を整理しまとめを行っていく。

次回会議日程

令和2年度第2回会議

日程：令和2年9月2日（水）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール

5. 閉 会